

令和4年度 自己評価実践報告書

学 校 名 福島県立福島東高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョン』について

- (1) 『学校経営・運営ビジョン』（別紙1）
- (2) 作成のねらい、意図、プロセス等

「令和4年度学校の自己評価等の進め方について」に基づいて、令和3年度の改善点を踏襲し、『学校経営・運営ビジョン』の作成及び評価を実施した。

- ① 『学校経営・運営ビジョン』の重点目標は、校長の経営方針に基づく文言に加えて、各部・学年・教科の努力目標のうち、全教職員がその意義を共有し、チームを超えて学校全体で実現に取り組みたい事項を掲げた。
- ② 『学校経営・運営ビジョン』においては、「数値目標」ではなく「指標」を掲げた。
- ③ 『学校経営・運営ビジョン』に関する自己評価の参考資料を得るためのアンケート調査においては、質問項目を精選した。
- ④ 各部・学年・教科の年度末評価（反省）の実施時期を早め、アンケート結果と併せて総括評価を第2回学校評議員会に提出できるようにした。これにより、学校評議員からの評価を踏まえて、次年度の計画策定をする時間が生まれた。
- ⑤ 全体として、学校評議員制度、人事評価制度等と学校の自己評価の体系を有機的に結びつけた。
- ⑥ 教員の日頃の探究的な取組を「可視化」するために、教員の人事評価シートに「研究テーマ」を位置づけた。

2 校内組織体制について

校務運営委員会を学校評価委員会に位置づけている。

3 自己評価等の進め方について（別紙2）

『年間計画表』作成のねらい、意図、プロセス等

II 評価結果の概要

1 各部・学年・教科の年度末評価（別紙3）

2 「学校経営・運営ビジョン」に対するアンケート調査及びその結果（別紙4、5）

(1) 調査の概要

対象	配布日	〆切日	回答率	内容
生徒	11月28日（月）	12月9日（金）	96.3%	質問は10～11項目に厳選し、評価者間の差も分析対象とした。
保護者	11月28日（月）	12月9日（金）	91.8%	
教職員	11月28日（月）	12月9日（金）	100%	

(2) 評価の基準

「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の4段階評価とした。

3 年度末評価のまとめ（『ビジョン』の総括評価）

(1) 教職員による評価

① 重点①「学びの充実」

学校全体として、授業を大切にしており、チャイムtoチャイムの授業、授業交換等を行い、生徒の知的好奇心を刺激する質の高い中身の濃い授業を展開するように心掛けている。

「大学進学のための学力向上推進事業」は計画通り実施され、進路指導部は3学年と連携し情報提供に努めた。大学合格者については、2月末現在のところ、国公立大学の学校推薦型・総合選抜型の合格者数は昨年度よりは1名少なく23名であるが、筑波大学1名、新潟大学1名、福島大学8名、福島県立医科大学9名（看護学部2名、健康保健学部7名）と、昨年度並みの合格者を輩出することはできた。一昨年度より大学入試制度も変わり、多様な入試への対策も行っている。しかし、大学入学共通テストの本校の平均点は依然として全国平均を下回っていることから、まずは全国平均に近づけるように学習指導において更なる対策が必要である。

英語科においては、例年、大学進学の受験資格にも必要となる大学もあるため、外部資格試験（英検）受験を促し、英検2級、準2級に合格する生徒も見られた。引き続き今後も多くの合格者を輩出するように指導していきたい。

家庭学習時間と学習科目の時間配分等には課題がある。昨年度同様、1、2学年の家庭学習時間の確保が課題である。

② 重点②「体育文化活動の充実」

多くの生徒が学習に励み、部活動を継続し、文武両道を実践している。

陸上部、美術部、書道部が全国大会に、柔道部、水泳部が東北大会に出場、多くの運動部、文化部が県大会に出場し上位の成績を収めた。

また、生徒の中には、福島駅前清掃など、ボランティア活動にも積極的に参加する姿も見られた。

今後は、更に学習と部活動に積極的に取り組ませる環境を整えていきたい。

③ 重点③「キャリア教育の充実」

授業に加えて、地域社会見学、模擬選挙等、行政、地域企業等とタイアップしての取り組み、総合的な探究の時間においては、SGDsを基とした1年次はグループ研究、2年次は個人研究、3年次はキャリア教育も意識した進路研究が行われている。しかし、総合的なコミュニケーション力の育成については、不十分な面もあり、学校全体として改善の余地があると考えられる。

本校では、新体力テストA級取得者数の割合を全校で5%アップを目標としているが、今年度は昨年度より4%減の30.6%であった。しかし、依然としてA級取得者数の割合は30%は超えており、他校と比較すると高水準を維持している。

平成30年度より、生徒の歯科治療率100%を指標の一つとした。昨年度は1月末で36.6%、今年度は11月現在ではあるが15.6%であり、昨年度よりはかなり減少している。痛み出してから遅いことを考えると、該当者に再度投げ掛け、歯科治療率を100%に近づけていけるように取り組んでいきたい。

本校図書館での生徒図書貸し出し数は、2,431冊（1月末現在）で1人あたり3.4冊であり、昨年度より0.7冊増えている。本校図書館の生徒入館者数も10,398人（1月末現在）であり、昨年度は10,949人（1/26現在）であり、1学級減を考慮すると昨年度とほぼ同数である。今後も、どのようにすれば、生徒がもっと読書に向き合ってくれるか考えていきたい。

スマートフォンの使用時間が長く、SNSの使い方や依存の問題は本校においても課題である。平成30年度入学生から、オリエンテーションにおいて新入生とその保護者に、外部講師による講話を実施していたが、ここ4年間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入学後に全校生徒を対象に実施している。また、生徒指導部で資料等を作成し、生徒・保護者に配付、ホームページにも掲載し注意喚起を行っている。今後も継続的に指導していきたい。

④ 重点④「情報発信の充実」

域内の中学生に対しては、東高見学会や高校説明会で「東高の教育」をアピールし、東高の魅力を伝えることができた。東高見学会は、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら2日間に分けて実施し、多くの中学生が参加し、参加者からのアンケートを見ると学校の様子が分かり良かったとの感想が多く得

られた。ホームページによる情報発信を頻繁に行い、昨年度に引き続き、毎日1000件以上のアクセスがあった。また、台風等の接近に伴う臨時休校等の連絡や、新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業の際の緊急連絡メール、ホームページについては、効果的に活用することができた。

「東高通信」や「進路だより」を発行し、生徒の心の琴線に触れる投げ掛けを行ってきた。「学校経営・運営ビジョン」に対する学校評価アンケート結果を見ると、目を通してしている生徒が昨年度より増えていた。今後も継続して発行していきたい。

⑤ その他

令和元年度より45分授業から50分授業に移行し時程も変更した。今年度入学生から新教育課程となり、評価方法も変わった。2年後の大学入試共通テストの教科数も増え、新たな対応も必要になるが、本校の魅力である部活動の時間も確保しつつ、文武両面での本校のよき伝統を維持するとともに、地域に慕われる特色ある学校を築いていきたい。

なお、今年度は「学校経営・運営ビジョン」に対する学校評価アンケートの生徒の回答率は若干下がったが、保護者の回答率は上がった。学校をよりよき方向に改善していくためにも、100%の学校評価アンケートの回答率100%を目指していきたい。

⑥ 総括

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策をとりながら、計画通りに教育活動を実施することができた。教員も熱心に生徒と向き合い、学習活動・部活動・生徒会活動等で関わり、3年生は進路目標の達成、部活動での上位大会への進出等、各方面で成果を出すことはできた。

例年、生徒・保護者・教員に実施している「学校経営・運営ビジョン」に対する学校評価アンケートをみると、「子どもを東高に入学させてよかったと思う」という問いに対する保護者の回答は、そう思う52.5%とややそう思う38.7%を合わせると91.2%であり、昨年度より3%増え、9割以上の保護者に満足していただいている。「東高に入学してよかったか」という問いにそう思うと答えた生徒の回答は、そう思う34.1%とややそう思う48.5%を合わせると82.6%であり、昨年度よりは3%減ではあるが、8割以上の生徒が満足している。

一方、気になるところは、「学習と部活動の両立が達成できるような支援体制が整っている」についての肯定的な回答が、「保護者からは61%、生徒からは48%と他の項目に比べて低かった。文武両道を校是としている本校としては、肯定的な回答が増えるための手立てを講じていく必要がある。また、昨年度、一昨年と同様、学年によってアンケート結果に差があること、生徒の思い、保護者の思い、教員の思いに違いやずれが見られたことの気になるところである。今年度もできるところから改善を試みたが、まだまだ教育活動に反映しきれていないところもあった。次年度に向けて、更なる改善を図っていく。

不登校・長欠、学校不適応、学業・進路、友人関係の悩みでスクールカウンセラーからカウンセリングを受ける生徒が昨年度と同様に多かった。小中学校の状況を見ても、今後、更に増えてくる可能性もあるため、それぞれの悩みについて、具体的な改善策を考え、講じていく必要がある。

さらに、依然として長時間勤務をしている教員も少なくない。しかし、東高の教育目標の達成のためにはどうしても教員の力が必要である。そのためにも業務軽減を図り、健康に留意できるよう教員の働き方の改善にも努めていく。なお、今年度は長期休業中の学校閉庁時間の短縮、学校閉庁時間には教職員が退勤し在校しないように取り組むことができた。

令和2年度、本校は創立40周年を迎えた。今後は50周年に向け、本校の特徴・強みを一層伸長させつつ、その意義を入学してくる生徒に伝え、新たな伝統を築き、地域住民の思いに応えられるようバランスの良い学校経営・運営を図っていきたい。

(2) 学校評議員による評価

① 肯定的な評価

- (ア) 『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について
- ・『学校経営・運営ビジョン』は適切で保護者の評価も良いと思いますが、
 - ・『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制に関しては、4つの項目、すべて、適切に整備と機能がなされているように思われます。
 - ・非常にわかりやすいです。ビジョンを示しそのために何をするか。その結果生徒がどのようになり学校が地域からどのように評価されるかのストーリーに無理がありません。このビジョンが基にあれば伝わりやすいと思います。校長先生をはじめ、各担当の先生のお話を伺いましたが、各セッションが非常に機能していると感じました。
- (イ) 『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について
- ・改善されていると思います。進路指導関係の情報開示について、学年によつての違いを無くし、統一されたのは良い例だと思います。
 - ・『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価に関しても、2つの項目ともに、適切に行われていると感じられます。
 - ・評議員二年目という事で初めて前年と比較することができ、年々向上していると感じました。間違いなく良い方向に向かっていると感じます。どちらも適切になされていると思います。
- (ウ) 広報とアンケート等について
- ・東高だよりは明るく生徒がいきいきしている様子が伝わり、東高新聞は新聞らしく情報の多いものになっていて、学校案内は東高を凝縮した作りで良いと思います。他にも東高通信、保健だより、図書館報、図書だよりと充実していて良いと思います。
 - ・広報とアンケート等についても、上記の1および2と同様に、学校の責務として行っている様子が、たとえば「学校案内」から見受けられます
 - ・今回も「東校だより」楽しく拝見させていただきました。文化部の活躍が素晴らしいです。「図書館報」、先生方の寄稿が充実していて良かったですが一方、運営する側の意見として「原稿の執筆ご苦労様でした」と感じました。ホームページですが、第一回の評議員会が終わってすぐに確認したところ、その日のうちに記事がアップされていて感動しました。アンケートですが、細かいところまで集計がなされていると感じました。責任をもって責務を果たしていると思います。
- (エ) 取組み状況全体について
- ・生徒指導、進路指導、教務の先生の話聞いて、問題が起きた時にすぐに対応して再発防止に取り組んでいること、新たな取り組みをしていると感じました。また、部・学年・教科の反省を見ると、反省、改善、要望と一生懸命取り組んでいると思いました。
 - ・取組み状況の全体については、特に、項目の②の「教職員の日々の活動」は、客観的に見ても、良いことがわかります。
 - ・いじめの報告数が少ないと伺いました。また、対応も迅速であると報告を受けましたので適切な対応をしていると思います。交通事故が発生した際の対応も素晴らしいと思います。今年度の入学生から新しい教科(情報)へ対応せねばならないと昨年聞きましたが、上手くいっているのかが心配です。生徒、保護者の満足度は、昨年からさらに非常に良い結果が出ていると思います。
- (オ) 自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善
- ・ここ数年の志願者増が受験生の東高に対する評価が上がっていることを物語っていると思います。
 - ・概ね行われていると思われます。
 - ・今年度は進路指導室の活用に注力していると伺い、その結果を実感しました。何より進路指導室担当の先生に熱気を感じました。次年度も

さらに指導室活用の研鑽に取り組んでいただきたいです。交通事故ゼロを目指す宣言も心強く感じました。安全・健康があってこそその健やかな学園生活になると思います。また、基本を大切にする姿勢も大切にしていると感じました。

② 改善を要する点

- (ア) 『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について
 - ・『部活動と学習の両立が達成できるような支援体制が整っている・努めている』については、保護者、教師どちらも評価が低く、改善が必要かと思えます。
- (イ) 『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について
 - ・学校経営・運営ビジョンに対する学校評価アンケートの教員の回答で、あまり思わない、全く思わないが、1/3を超える3項目と、部・学年・教科の反省で挙げた問題点の改善を望みます。
- (ウ) 広報とアンケート等について
 - ・アンケートの結果がどのように広報などに反映されているのかが良くわかりません。可能であれば、アンケートと広報との関係性、その可視化を試みてほしいです。
- (エ) 取組み状況全体について
 - ・特になし。
- (オ) 自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善
 - ・入学後に学校経営・運営ビジョンに対する生徒の評価が年々低下しているのが気になります。
 - ・1) 生徒、2) 学校、3) 地域、そして、4) 保護者という、四つを一つに纏めるのは非常に困難であると推測されるが、可能な限り、一つの統一的なビジョンの作成・実行・展開を、今後も引き続き行ってほしいです。

③ その他

- ・ボランティア活動をもっと行った方がよいと思います。東高生が、小中学生への学習や部活動の指導などに関わることができれば、東高を目指す子が増えると思います。
- ・年内入試が主流になっているが、指定校推薦と総合型選抜に於いては近年実績の半数に減り、公募型推薦で横ばいなのは問題だと思います。生徒だけでなく先生も、近年の入試形式の変化に対応していくよう望みます。
- ・先日も、校長先生が中学校に出向いて学校説明会を行ったということを知ったので、これは、今後も継続して行った方がよいと思います。
- ・先日の会でも言ったことですが、学校と先生は、時代と共に、変わらないといけない／変えなければいけないことがあるのは確かですが、その反面、変えてはいけない／変えないことがあるのも定かだと思えます。では、何を変えて、何を変えないのか、という差異や判断は非常に難しいのですが、このことを常に頭の片隅に置いて、日々の学校生活を、生徒と共に、過ごして行ってもらいたいと思っています。
- ・「コロナ禍においても学校行事は生徒のために疎かにしない」という理念のもと、各種行事を無事に執り行った姿勢には感服いたします。生徒たちの貴重な青春の1ページを無駄にしたくないと言う想いからの行動と存じます。コロナ禍は一先ず今年の5月に一区切りつく予定ですが、まだまだ色々な考えの方向はいらっしゃるとは思いますので、留意しつつ適切な対応を期待します。

Ⅲ 広報の概要

- 1 『ビジョン』、アンケート調査結果、年度末総括評価(学校評議員による評価を含む)については、学校のホームページで公表する。
- 2 アンケート調査結果については、今年度中に保護者へ文書で報告するとともに、次

年度PTA総会等で配布する。

- 3 学校の教育活動全般については、ホームページの記事の更新、各種通信（『東高通信』（教務部）、ほけんだより、東高図書だより、進路だより、生徒会新聞、東高新聞（新聞委員会）、生徒会誌『まほろば』、図書館報、PTA広報紙・新聞）等で、保護者等への広報に努めている。

IV 次年度へ向けて

1 令和5年度の学校経営方針（素案）

- (1) 4つの重点項目「学びの充実」「体育文化活動の充実」「キャリア教育の充実」「情報発信・共有、施設の活用」について、「豊かな人間性を備え、新たな知や価値を創造していく生徒」「地域のリーダーとなり、地域から愛される学校」を目指し、各部・学年・教科等の各部署で具体的な目標を定めて実践していく。
- (2) 本校の歴史・現状・将来のあるべき姿と教育界の動向を踏まえ、普通科における特色あるコース制として次年度からの教員コースの導入、今年度入学生からの新教育課程等、本校の教育活動の質の向上を図るためのカリキュラム・マネジメントを行っていく。また、議論の中から具体化する改善策は順次取り入れて、教育の質の一層の向上を目指す。